

令和元年度第3回曾於保健医療圏地域医療構想調整会議 開催結果

日 時：令和2年2月21日（金）18:00～19:15

場 所：曾於医師会立病院講義室

出席者：曾於保健医療圏地域医療構想調整会議委員14人（うち代理出席3人，欠席1人）

傍聴者：18人（委員随行者・関係者を含む），記者1人，事務局7人

1 議事内容

(1) 協議

① 公立・公的医療機関以外のその他の医療機関の具体的対応方針について

② 来年度の地域医療構想調整会議の進め方について

(2) その他

① 重点支援区域について

2 協議結果

(1) 公立・公的医療機関以外のその他の医療機関の具体的対応方針について

事務局から令和元年度曾於保健医療圏地域医療構想調整会議医療関係者専門部会において関係医療機関から説明がなされた内容を説明した。

①曾於医師会立有明病院

②昭南病院

③大山病院

④財部中央病院

⑤財部記念病院

⑥高原病院

⑦中島病院

①～⑦の公立・公的医療機関以外のその他の医療機関の2025年に向けた具体的対応方針について、委員から特段の意見等はなく、合意が図られた。

(2) 来年度の調整会議の進め方について

来年度の地域医療構想調整会議については、事務局案を基本に協議を進めることについて了承が得られた。

(3) その他

①重点支援区域について

質疑：医療機関が統廃合を行う場合に、建物は一つでないといけないのか。複数の医療機関が統廃合を行う場合、どちらかの病院に病床を持っていくのは無理であり、かといって新しい病院を建てるのは非常に難しい。建物が別々でもいいのか、組織が一緒であればいいのか。

回答：県へ確認し回答したい。

質疑：この制度は何年くらいの予定であるのか。

回答：厚生労働省の資料では、「当該補助制度は令和2年度限りとし、令和3年度以降においては、地域医療構想調整会議における議論の進捗状況等も踏まえつつ、消費税財源による『医療・介護の充実』とするための法改正を行い、これに基づき病床ダウンサイジング支援を行う」とされている。

②その他

主な意見

・専門部会において、各医療機関の説明を聞いて、各医療機関が具体的に行っている医療の内容がよく分かった。地域住民も知らないのではないか。そういったことを地域住民が知ることは大事なのではないか。

・単独の病院，クリニックでまかなっていくのは非常に難しいと思う。医師確保，看護師やヘルパーの確保が非常に難しいなかで，お互いに活用できる資源を共有しながらやっていくことを地域全体で考えていかないといけない。

・医療と介護は両輪で成り立っている。市町においても，介護の受け皿づくりについて，介護医療院への移行により介護への負担もあると思われるため御検討いただきたい。